

アクティブシニアが長期停滞日本を救う?

民間独自でピンチをチャンスに変える動き



経済ジャーナリスト
メディアオフィス「時代刺激人」代表 牧野 義司

巨大な人口の塊とも言える団塊の世代の人たち約650万人が2025年にすべて75歳の後期高齢者となり、日本は本格的な超高齢社会時代に入る。

超高齢社会対応のシステムが不備

ところが問題は、平成時代の30年間にバブル崩壊の後遺症などで長期経済停滞に陥ってしまった日本が、世界でも類例のないこの高齢社会に対応するしつかりとした社会システムを持ち合わせていないことだ。

この国の政治や行政が、時代の先を見据えて新たな制度設計に取り組んでこなかった責任は間違いない大きい。

でも、そのことを悲憤慷慨していても始まらない。民間は民間で独自にアクションを起こし、ピンチをチャンスに切

り替えるさまざまなチャレンジ行動によって政治や行政を、あるいはメディアを覚醒すればいいのだ。

そんな問題意識でがんばっている民間の興味深いチャレンジがいろいろ出てきている。そのうちの2つほどの事例を取り上げよう。彼らの取り組みのキーワードは、アクティブシニアがアクションを起こして長期経済停滞の日本を救おう、新たな成熟社会モデルをつくる、という点だ。

企業OBでつくるDFが新プロジェクト

まず1つは、企業経営に携わった役員OB、幹部OBが軸になって2002年につくった一般社団法人ディレクトフォース(略称DF、真瀬宏司代表理事)という組織だ。60代、70代を中心に会員

総数は約1300人。

ゴルフ、囲碁、旅行などの同好会を通じて交友の輪を広げ人生を楽しみたいというサークル活動もあるが、メインは社会貢献。端的にはベンチャー企業などの起業支援や中小企業経営のアドバイス活動、小中学校の理科実験教室や社会科授業への出張支援に取り組んでいる。

企業経営などの現場で培った技術の知見や経営戦略手法、経験、さらに人脈ネットワークをリタイア後も生かして社会貢献したいという人たちがベース。中には人生2毛作目の仕事場確保を、という人たちもいる。シニア会員が大半だが、アクティブシニアを意識した組織だ。

興味深いのは最近、新たに「100歳社会総合研究所」を立ち上げたことだ。超高齢社会という重苦しい時代状況のもの

とで、発想が元氣なシニア、アクティブに行動するシニアが社会を活性化していくことになる、との判断からDFが自ら社会のロールモデル、早い話がモデルになるべく実践行動すると同時に、それらの経験や体験をもとに、必要に応じて超高齢社会の取り組み課題は何かなどの提言も行っているというものだ。

60代、70代のシニアたちがアクティブシニアの生き方、健康長寿への実践的な取り組み、体験事例などを示せば、それが1つのロールモデルになるとの発想だ。今後は同じような問題意識を持つ民間の他の組織、企業、自治体なども連携して新たな超高齢社会のシステムづくりにつなげていきたい、という。

プラチナ構想ネットもアクティブ

この社会システムづくりという点で、もっと明確な方向付けをして活動しているのがプラチナ構想ネットワークだ。東大元総長で三菱総研理事長の小宮山宏さんが構想した。日本は急激なピッチで進む高齢化社会問題、環境問題などさまざまな課題を抱える先進国という意味で「課題先進国」だと位置づけ、それらの

課題を克服するため、新たな成熟社会モデルとしてプラチナ社会をつくりあげようと民間主導の活動組織にした。

小宮山さんによると、日本中に快道な自然環境の再構築、環境との調和や共存をめざすエコロジー社会、高齢者も含めて健康で安心して加齢できる社会、資源に関しても再生エネルギーなどの効率的な活用、物質循環システムの構築が定着する社会、そしてイノベーションによる新産業の創出で豊かな雇用が生まれる社会がプラチナ社会だ、という。

プラチナ構想ネットワークが存在感を見せるのは、小宮山さん主導でプラチナ構想ネットワークの会員が考え出し提案するプロジェクトの社会実践をどんどん進め、課題解決につなげていることだ。

最近の事例では日本でも短命県と言われる青森県で、弘前大学が中心になって青森県民のさまざまな健康ビッグデータをもとにガンなどの疾患予兆法を開発、さらに産官学連携でのオーブナイノベション手法で健康づくりプロジェクトを展開、とくに企業を巻き込んだの新事業や新規雇用の創出を積極支援した。

私はこれら2つの組織のプロジェクト

に強い関心を持ち、活動にも積極参加している、少し追加報告をしよう。

状況次第でアジアからリスベクト対象

ディレクトフォォースはアクティブシニアが「100歳社会総合研究所」などを通じて、自らロールモデルになるような取り組みを行いつつあるが、取り組み次第では日本がこれから直面する超高齢社会の社会システムづくりへ貢献するユニークな組織になる可能性がある。

また、プラチナ構想ネットワークも社会実装というプロジェクトを通じて全国で常識破りの発想でまさに時代を画するプラチナ社会づくりをめざす動きを具体化させている点が実に面白い。

それらの社会実装が点から線に、そして面へ広がる展開になっていけば、アジアの国々、とくに人口の高齢化が急ピッチで進み経済成長と高齢化社会問題対応で苦しむ中国や韓国、タイなどにとつては、日本が先進モデル事例となり、リスベクトの対象になるかもしれない。

日本のアクティブシニアが新社会システムづくりに貢献となれば後発国の高齢者を勇気づける話にもなり得る。